

2017年3月6日

朝礼の話 (2017年3月)

皆さんお早うございます。先週3日は桃の節句、昨日5日は二十四節気の啓蟄でした。来週初めに奈良二月堂でお水取りが行われ、17日は彼岸の入りとなります。気象庁から今年の桜の開花時期予想も発表されました。桜の開花は例年より若干早いようです。本格的な春が一気にやって来そうですが、今週も真冬並みの気温となる日もあり、お彼岸までは寒暖の気温差が大きくなる日が続きます。少し暖かくなるとちょっと気が緩み、風邪を引くなど体調を崩しやすくなります。寒暖の変化にも充分気をつけて、決算月を元気で乗り越えていきましょう。

先月半ばに発表された昨年10～12月期の国内総生産（GDP）速報値は、実質の季節調整値で前期比0.24%増、年率換算で1.0%増となりました。4四半期連続のプラス成長となっています。米国や中国への自動車輸出や中国向けの電子部品が伸びました。項目別内訳を見ますと、輸出が前期比2.6%増、輸入が1.3%増、個人消費が0.01%減、設備投資が0.9%増となっており、輸出の伸び、つまり外需がGDPを押し上げたといえます。個人消費など内需は依然低調で伸び悩んでいます。天候不順による生鮮野菜の価格高騰が個人消費を押し下げたと見られています。雇用者報酬が実質、名目ともに前年同期比2%伸びているのに消費増加に繋がらない構造が続いています。先行きの見通しは、景気の緩やかな回復は続き、1%前半のプラス成長となると見られています。主たるリスクとしては、米国トランプ大統領の保護主義的な通商政策、中国の景気動向、EU各国の政治混乱などの世界情勢、内需リスクとして個人消費と住宅投資の伸び悩みがあるといわれています。内需に力強さがなく、世界の政治、経済の情勢次第で景気回復の足取りが変わってくるといえます。

こうした経済情勢の中で、今月は今期決算の締めくくりと来期の利益計画の策定という当社にとり最も重要な月となります。各部店ともに期首及び修正計画に掲げた目標・課題に対し、何が出来て、何が出来なかったのか。目標達成のため何をすべきだったのか。経済環境、景気動向、主要取引先の個別状況などの外部要因が、期首見通しに比べてどう変化したのか。その変化にどう対応し、対策を打ったのか。謙虚に、木目細かく分析し、総括する必要があります。その分析、総括を基に、具体的で実現可能であり、部店全員が共有し、挑戦できる目標・課題を設定していただきたい。簡単に飛び越えられる低いハードルを設定すれば、実現可能性は高まりますが、それでは会社の成長はありません。実現困難な高すぎるハードルでは会社の経営を危うくしてしまいます。全員の努力を結集して、全員の持てる力を100%出し切れれば達成可能な目標・課題の設定が理想的です。そのためには、部店長が中心となり、部店全員とよく話し合い、それぞれに具体的な目標・課題を設定し、その目標達成、課題解決に向けて全員が努力していく体制をつくることが重要です。部店全員の意欲があふれ出た力強い計画の策定を期待します。 以上